

- 日 時：2018年12月23日（日）
- 場 所：立川教会クリスマス礼拝
- 説教題：「起きよ、光を放て。救い主は来られた。」
- 聖 書：旧約 イザヤ書 60：1－5（旧 p1159）  
新約 ルカによる福音書 2：1－20（p102）
- 讃美歌：267「ああベツレヘムよ」 264「きよしこの夜」

お早うございます。

クリスマスの朝を迎えました。

神様の独り子である主イエス・キリストの誕生を覚える朝です。

キリスト教の暦の中で、私たちが特別に礼拝する主の日は 3 回あります。一つは神様が死を打ち破り、イエス様を甦らせた復活日（イースター）、第二は、イエス様が神様の御許に帰られた後、約束通りイエス様に替わって聖霊が神様から弟子たちに与えられた聖霊降臨日（ペンテコステ）、そして、今日の降誕日（クリスマス）です。

イースター、ペンテコステ、クリスマスと、どれ一つを欠いてもキリスト教がキリスト教として成立しない重要な事柄であるにもかかわらず、なぜクリスマスが、全世界の人々が祝う特別な日になったのでしょうか。キリスト者であるなしにかかわらず、全世界に広がり得たクリスマスの意味について考えてみたいと思います。

本題に入る前に、昨日行われたクリスマス・コンサートのことを短くご報告したいと思います。

朝は陽射しが出て期待したのですが、予報通り、演奏会の始まる頃に小雨がぱらつき始めました。そのため、聞きに来るのを諦めた車椅子の方もいらっしゃいましたが、参加者は 59 名、奇しくも昨年と全く同数でした。一昨年は、3・11 東日本大震災支援コンサートでもあり 65 名の参加者がありましたが、今年は、立川教会関係者が 15 名、それ以外の方が 44 名と、初めての方を含め、この教会に多くの方が訪れました。

演奏者も素晴らしく、小 5、中 1、母親と言う磯部ファミリーにピアニストの高田さんが与えられ、文字通りアトホームな、素晴らしい演奏会となったことを神様に感謝し、ご報告したいと思います。又、休憩時間の合間に行ったミニバザーも好評で、集会室には人が溢れ、売り上げも良かったようです。

それにしても思うのです。

昨日の演奏会には、立川教会の総力を結集した感がありました。

まず演奏者を紹介した方、昼食のサンドイッチを準備した方、ミニバザーのために倉庫から品物を出して下さった方、あるいは演奏者への花束や見事なまでのポインセチアを取り寄せて下さった方、さらには、ピアノとオルガンの移動や至誠ホームから 20 脚の椅子を運んで下さった方、そして、何よりも演奏を聴きに来て下さった方、聞きには来れなかつ

たけれども祈りに覚えて下さった方など、本当に立川教会関係者の力を集めて実現した演奏会でした。それは、ひとえにこの立川教会が神様によって建てられ、地域伝道の使命が与えられていることを私たちは知っており、そのために神様によって呼び集められた群れであることを知っているからです。

昨日の午前中に行われた洗礼準備会でもお話ししたのですが、それぞれに与えられた賜物があります。それは、お互いの間で確認するものではなく、神様によってその人に知らされる、用いていただくものです。神様が自分に何を賜物として与えられているのか、そしてその賜物を、神様の栄光を現すためにどのように用いて行くのか、そのことを日々考える群れでありたいと思います。

それでは、今日、与えられた御言葉を見てまいります。

私は、今年のクリスマスですが、柔らかなベッドではなく、堅い飼い葉桶の中に寝かされたイエス様の姿に心が捕らわれるのです。私には 3 人の子どもがいますが、誰でも親であれば、子どもには一番良い環境を与えたいと思います。ましてや、世に生れいずる時であればなおさらのことです。その子の母親にとって、そして何よりも生まれて来る子どもにとって、人生の最大の出来事なのですから、産声をあげるその瞬間は、何ものにも代えがたい大切な環境を与えたいと願うはずです。マリアとヨセフにしても同じだったと思います。

しかし、イエス様が生まれた環境は劣悪でした。劣悪と言うより、人の子が生まれるべき環境ではありませんでした。動物たちの鳴き声に囲まれ、昼間でも薄暗い家畜小屋であったからです。

しかし、ルカによる福音書だけに記されているイエス様の誕生をめぐるこの出来事に心を留める時、この事を最初に知らされたのが羊飼いであることにも心を奪われます。当時のユダヤ社会において最下層の生活を強いられていた人々です。貧しく、人々から除け者にされた、小さき人々でした。ルカは、神の御子主イエス・キリスト誕生を、飼い葉桶と羊飼い

とで記しました。救い主の誕生、ルカは、これ以上なく過酷な環境において、これ以上なく貧しく疎外された人々こそ真っ先にその喜びに招かれた事実を語りました。

それでは、この事実を語る事を通して、ルカは何を私たちに伝えたかったのでしょうか。過酷な環境、疎外された人々、主の使いである天使と天の大群の祝福です。

私は、ここにこそ、人として世に生れ出でた全ての者に対する存在への肯定を読み取るのです。堅い飼い葉桶の意味するところは、そこまでにしてキリストは身を低くされたことです。どれほど貧しくとも、決して有り得ない、堅い飼い葉桶にイエス様は寝かされました。他の誰よりも貧しくあるためです。

そして、神の御子の誕生の喜びを知らされたのは、恐らく世の誰にも相手にされない疎

外された羊飼いでした。しかし、彼らこそ、真っ先に、天の大群によって祝われた神の御子誕生の宴に招かれました。彼らに親しき友が与えられたのです。

貧しさの極みにある人でも、イエス様と同じ環境で生を迎えた人はいません。

友も無く疎外された人々、それらの人のためにこそ、イエス様は生まれたのです。

その事を、今一度心に刻みつけると共に、そのイエス様が私たちに語られていることがあります。それは、私の後に従って来なさいと言うことです。

つまり、イエス様がお生まれになったこれらの出来事の意味は、ただ物語として読むのではなく、イエス様が歩まれたように、その後に従って私たちも歩むようにと促されているのです。

私は、立川教会に招聘されてから 3 年の歳月が経ち、2019 年は 4 年目を迎えます。

このクリスマスの出来事が私たちに語っている、人として世に生れた全ての命に対する無条件の肯定と祝福、それが私たちにとって何を意味しているのかを考えるのです。

誰一人として例外なく、本当に素晴らしい賜物が神様によって与えられている私たちです。

神様は、新しく加えられたお二人の方を迎えたこの立川教会に、さらにどのような働きを求めておられるのかを祈りを一つにして聞き、それに応える群れになりたいと思います。

祈りましょう。